

4 事業の評価

評価基準				
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか	○	急いで取り組む	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	おおむね達成 (70~90%未満)	○ 達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	科学普及教室は、申込者が増加し、その需要は伸びる傾向にある。令和5年度は、感染症対策を講じながら、参加人数や学習内容等を見直し実施した。
見直し・改善内容	科学普及教室の内容の精選及び開拓を進め、より充実させることで、参加者数の維持・増加につなげていく。プラネタリウム番組については、昨年度に引き続き、1日に子供及び大人向け2番組の投影を行い、大人も楽しんでもらえるよう集客を図った。また、市民図書館と連携協力し、科学普及教室の出前授業や天体観察会を行った。今後もあらゆる可能性を探って、工夫した運営を行っていく。